

看護研究バックナンバー(内容紹介)

JUL
AUG
Vol.
45
No.
05

特集 | 北欧ケアとは何か 看護研究への示唆

- 北欧ケア研究のために もう1つの現象学的アプローチ 浜渦辰二
- 患者に焦点を当てることは生活世界に焦点を当てることである
ケア学というパースペクティブ カーリン・ダールベリ/監訳: 浜渦辰二 翻訳: 川崎唯史
- 北欧ケアの思想的な拠り所 問いとしての「福祉」 竹之内裕文
- ホスピス・緩和ケアにおける生活世界ケア
スウェーデンとスコットランドのホスピス・緩和ケア病棟の視察を通して考えたこと 齊藤美恵

●特別記事

日本の医療分野における質的研究論文の検討(第1報)

論文数の推移と研究法の混同 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関 美佐

●原著論文

小児病棟の組織文化と看護実践 患者が子どもであることによる困難さ 川名るり

●連載

Words, words, words. 一学際的なダイアログをめざして④

サイエンスとアート(その2) 江藤裕之

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・10 量的研究—分析の基礎(後編) 坂下玲子

Suppl.
Vol.
45
No.
04
(増刊号)

特集 | 経験を記述する 現象学と質的研究

- 経験の編成を記述する 前田泰樹
- 経験を記述するための言語と論理 身体論からみた質的研究 村川治彦
- 経験を理解するという探究の経験を通しての記述 大久保功子
- 緩和ケア病棟における看取り 死の直後の実践経験 守田美奈子
- 看護学生の「患者理解」という経験に関する記述 ガダマーの解釈学を手がかりに 前川幸子
- うつ病という病いの経験を語ること/記述すること 近田真美子
- HIV 感染した血友病患者の経験 経験の捉えなおしに焦点を当てて 大村佳代子
- 時間経験と協働実践の編成 急性期病棟の看護に注目して 西村ユミ, 前田泰樹
- 事象に示される通りに フィールドワークという実践 西村ユミ, 前田泰樹

●特別記事

質的研究の結果は一般化できないのか?

質的研究における一般化可能性

谷津裕子, 北 素子

MAY
JUN
Vol.
45
No.
03

特集 | 質的研究を学び合う JRC-NQR の実践

- 質的研究の学び舎 JRC-NQR 谷津裕子
- 看護学の知の母胎としての「語らいの場」 中木高夫
- 『看護研究』誌にみる日本の質的研究の変遷 過去約40年間におけるレビュー 住谷ゆかり
- 質的研究におけるインタビューの捉えと実践 深谷基裕
- エスノグラフィー 理論的パースペクティブの変遷と看護研究における可能性 阿部利恵
- 言説分析について 永田明
- 研究論文の投稿から掲載まで 特に査読後の心境の変化に焦点を当てて 千葉邦子
- システムティックレビューにおけるエビデンス統合とその解釈的アプローチ 北素子
- 社会構成主義の実践としての対話 Gergen の『あなたへの社会構成主義』から 濱田真由美
- 質的研究の統合 メタ・シンセシスに焦点を当てて 谷津裕子, 濱田真由美
- 言語学と質的看護研究 JRC-NQR と私 江藤裕之

●連載

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・9 量的研究—分析の基礎(前編) 坂下玲子

Words, words, words. 一学際的なダイアログをめざして③

サイエンスとアート(その1) 江藤裕之

